

変化しながらも 生きているふるさと



ここ「蒲生なかの郷愁館」は、仙台市立中野小学校があった「なかの伝承の丘」と向き合っています。

建物の入口にある杉の切り株は、中野小学校の生徒「杉の子」たちと共にあった学校のシンボルです。杉の木に刻まれた年輪は、子どもが暮らしの原動力となり、心の糧となり、成長して大人になって、次の子どもたちを守ってきたものがたりを語りかけているかのようです。

太平洋に開かれ空が広がる平野「蒲生なかの」の歴史を俯瞰して見ると、ここは地政学的に暮らしの文化と自然災害がせめぎ合う宿命の渚といえるかもしれません。

人が住み始め、田畑を耕し、やがて「貞山掘」を掘削して賑わいを生み「町蒲生」と呼ばれ、寺子屋から「中野小学校」が誕生し、昇る朝日を「日和山」は見てきましたが、東日本大震災によって、人々が住んで暮らした陸地は景色も役割も、まったく新しい変化をしています。

一方、海と陸の間にある「蒲生干潟」は、元の姿に戻ろうとする変化をしており、ここ「蒲生なかの」は、人間と自然の力強い存在のエネルギーが向き合っているようです。

人の暮らしを乗せた土地、その人たちが見てきた風景には、ふるさとの思いが染み込んでいます。それは自然の猛威に対して、負けずに変化してきた人間と自然の歴史であり、この土地に郷愁の念を抱く限り、この土地の文化が根差し続けることでしょう。

「蒲生なかの郷愁館」が、人の暮らしの変化や、自然とのかかわりといった歴史や文化を伝え、それがあらゆる人と自然との営みを「想像する助け」になれるなら幸いです。

蒲生なかの郷愁館準備室
代表 八巻 寿文

杜の都バイオマス発電所 蒲生なかの郷愁館

入 場 料 無料

開館時間 10:00~16:00

休 館 日 毎週月曜日(祝日の場合はその翌日)、
祝日の翌日(土・日曜日、祝日を除く)、年末年始、臨時休館日



杜の都バイオマス発電所構内には、来館者用の駐車場はございません。



館長 下山 正夫[なかの伝承の丘保存会会長]

983-0002

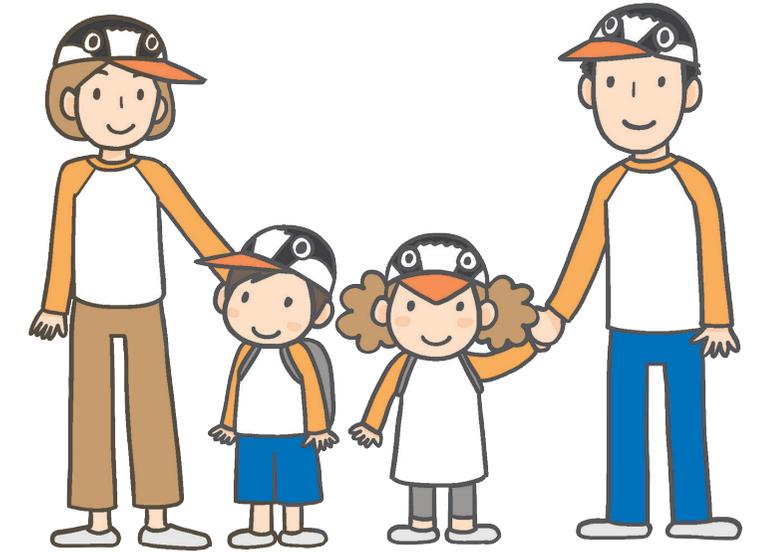
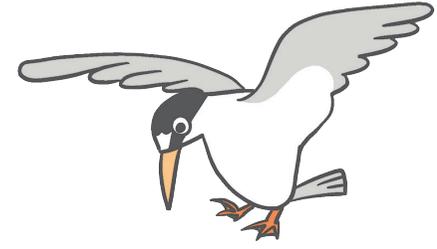
宮城県仙台市宮城野区蒲生4-1-1(杜の都バイオマス発電所1階)
JR仙台駅よりタクシーで約30分/JR仙石線陸前高砂駅からタクシーで約10分

お問合せ

*ご案内・団体見学予約申し込みフォームは準備中となります。

info@mmb-energy.jp

杜の都バイオマス発電所 蒲生なかの郷愁館



「蒲生なかの地区」ってどこだろう？

宮城県仙台市の宮城野区の東側にある海沿いの地区のこと。「蒲生なかの郷愁館」が立っている場所です。



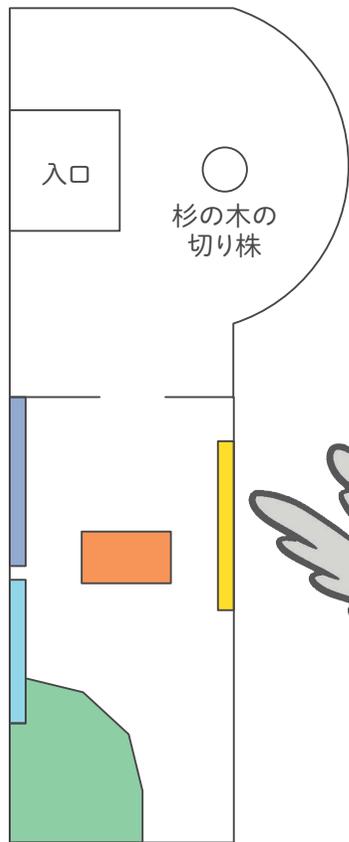
日本 | 宮城県

宮城県 | 仙台市 | 宮城野区

宮城野区 | 蒲生なかの地区

展示について

この展示室がある杜の都バイオマス発電所は、太平洋に面した仙台市の沿岸部に建っています。豊かな干潟とともに、かつてこの地域には4つの町内からなる町と暮らしがありました。長い歴史の中で様々な変化をしてきた蒲生なかの地区は、どんな場所だったのでしょうか。そして新たな役割を得たこの地区は、これからの私たちの暮らしと、どう関わっていくのでしょうか。



● 展示は5つのエリアに色分けされています

蒲生干潟に生息する中野小学校のシンボルバードのコアジサシと蒲生なかの地区出身のパパとママのコアジサシ家族がガイド。いっしょに「蒲生なかの郷愁館」を見よう！

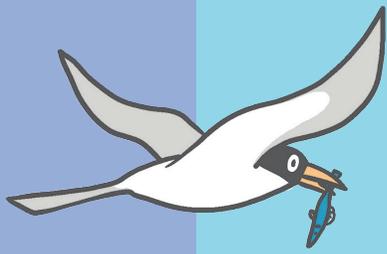
地域の歴史と中野小学校

江戸時代に始まった運河の工事とともに発展してきた蒲生なかの地区は、長い歴史の中で何度も大きな変化を乗り越えてきました。この地域で暮らしてきた人たちの姿を「蒲生なかの地区の移り変わり」とおして想像してみてください。



豊かな生態系が残る場所

七北田川の河口付近にある蒲生干潟は、生命力あふれる豊かな自然と出会える場所。四季を通して様々な生き物が集まり、かつてこの地域で暮らしていた人たちも、日和山で野鳥観察など憩いの場として大切にしていました。東日本大震災を経てもなお生き生きとしている干潟の姿を、確かめてください。



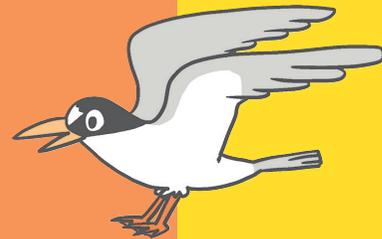
中野小学校の記憶

開校から閉校までの143年間、中野小学校は子どもたちが通う学びの場であるとともに、大人たちにとっても地域の人と関わり町を見守る大切な場所でした。明治から平成に至る長い歴史の中で、小学校には多くの人が集まりました。中野小学校に詰まったたくさんの思い出に触れてみてください。



地図で見る蒲生なかの地区

江戸時代に町が生まれるきっかけになった貞山運河が、今も残っています。地域に大きな変化をもたらした仙台港の開港や東日本大震災など、様々な出来事もありました。今ここにあるもの、かつてここにあったものを、地図を通して見てみましょう。



暮らしを支えるエネルギー

私たちが暮らしていくためには、様々なものが必要になります。蒲生なかの地区の周辺の施設を通して、そしてこの発電所が担っている「電気」を通して、社会と暮らしに欠かせないエネルギーについて考えてみましょう。

